

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：34411

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2023

課題番号：17K13167

研究課題名（和文）選手のリーダーシップスキル向上における可能性を探る

研究課題名（英文）Facilitating athletes' leadership skills development

研究代表者

小菅 萌（Moe, Kosuga）

大阪体育大学・体育学部・准教授

研究者番号：80649624

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000 円

研究成果の概要（和文）：アスリートリーダーは、チームの共通の目標の達成に向けてほかのメンバーに影響を与える選手である。本研究では、アスリートリーダーのリーダーシップスキルの成長についての検討を行った。まず、アスリートのリーダーシップスキルを測定する尺度の開発を行い、4つの必要なスキル(認知・対人・マネジメント・ビジョニング)を確認した。さらに、その尺度を使用し縦断的に行った調査で、アスリートリーダーのスキルはチームの一体感を示す集団凝集性やチームの自信を示す集合的効力感と正の関連を示した。スポーツの現場、教育でのリーダーの成長の可能性についても検証し、関連論文は国内外の学会、国際誌等で発表、情報提供を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アスリートリーダーに関する研究は、この20年ほどで知見が積み上げられ、その重要性が認識されているにも関わらず、アスリートリーダーの成長に関する研究はほとんど行われてこなかった。本研究で、アスリートリーダーが成長するプロセスでどのようなスキルを成長させるべきか、そしてそのアスリートリーダーシップスキルに関わる環境の要因（集団凝集性、集合的効力感など）について示すことができた。また、スポーツ現場、そして教育の場でのリーダーの成長可能性についても示されており、スポーツ、そして社会におけるリーダーの成長・発展に寄与する知見が得られたと考えている。

研究成果の概要（英文）：Athlete leaders are athletes who influence other members toward a team's common goal. The purpose of the present study was to examine development of athlete leaders' leadership skills. First, I developed the athlete leadership skills inventory, and showed that athlete leadership skills consist of four skills (i.e., cognitive, interpersonal, management, and visioning). A longitudinal investigation using the inventory showed that athlete leadership skills are positively related to group cohesion and collective efficacy. I examined development of leadership skills in sport teams and education settings. Several papers were presented at conferences and published in academic journals.

研究分野：スポーツ心理学

キーワード：リーダーシップ スポーツ チーム

1. 研究開始当初の背景

- (1) リーダーシップは集団の掲げる共通目標を達成することに個人が影響を与えるプロセスであると定義されてきた (Northhouse, 2001, p.3)。またスポーツ心理学では、そのようにチームの目標の達成に影響を与える選手を「アスリートリーダー」と定義し、特に 2010 年以降、主に欧米を中心に研究が進められ、アスリートリーダーの重要性が示されてきた。
- (2) しかし、このようなアスリートリーダーの成長の可能性に関しての科学的な知見は乏しかった。これまでのアスリートリーダーの成長に関する研究の限界を踏まえ、申請者は 3 つの大学スポーツチームを対象に、公式なアスリートリーダー (キャプテン/副キャプテン)、非公式なアスリートリーダー (チームメイトにリーダーとみとめられている選手)、チームメイト、そして監督にインタビュー調査を行い、多角的な観点からアスリートリーダーに必要なスキル、そしてそのスキルの獲得過程についての予備的モデルを作成し (Machida-Kosuga & Kohno, 2023)、アスリートリーダーシップスキルを測定する尺度の作成を試みた。しかしながら、この研究でもアスリートリーダーのスキル獲得に関しての可能性、そしてその過程の検証は横断的で予備的な調査の結果にとどまっており、「選手のリーダーシップスキルは育てることが可能か」という問いに完全に答えられる知見が得られていなかった。

2. 研究の目的

- (1) 本研究では申請者がこれまでに行った研究をもとに作成し、そしてさらなる文献のレビューによって改訂したアスリートリーダーシップスキルの測定尺度の信頼性・妥当性を確認すること、またアスリートリーダーシップスキルの測定尺度を使用し、縦断的にアスリートリーダーのリーダーシップスキルは変化するのか、またその変化に関連する要因を検討することを目的とした。
- (2) 合わせて、本研究でアスリートリーダーを対象としたリーダーシップ・プログラムの有効性について、アスリートリーダーシップスキル尺度を使用し、予備的な検証を行うこととした。

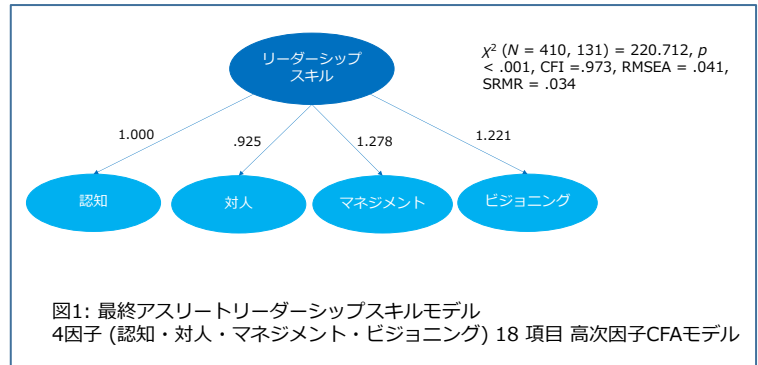
3. 研究の方法

- (1) 学生競技スポーツ参加者 411 名 (女子 $n=239$, 男子 $n=172$) を対象に調査を行った。調査参加者は、申請者が作成し、改定したアスリートリーダーシップスキル尺度に回答した。合わせて、チームの自信を表す集合的効力感、一体感を表す集団凝集性を、集合的効力感尺度 (内田ほか, 2014)、集団環境質問票 (内田ほか, 2014) を用いて測定した。得られたデータから、探索的構造方程式モデリング (ESEM) と確認的因子分析 (CFA) を用いて、アスリートリーダーシップスキルの因子構造を検証した。
- (2) 最初の調査の参加者のうち、7 チームの 236 名 (女子 $n=135$; 男子 $n=101$) に対しシーズン後にフォローアップ調査を実施した。フォローアップ調査で、参加者は最初の調査と同じ尺度に回答を行った。このフォローアップ調査からのデータをもとに、アスリートリーダーシップスキル尺度の測定不変性を検証した。また交差遅延パネルモデル、交差遅延成長曲線モデルを使用して、アスリートリーダーシップスキルの変化と、集団凝集性、集合的効力感との関係に関する検討を行った。
- (3) スポーツチームを対象としたリーダーシップ育成プログラムや体育大学の学生が受講する関連分野の授業においてアスリートリーダーシップスキルの変化の予備的な検証を実施した。

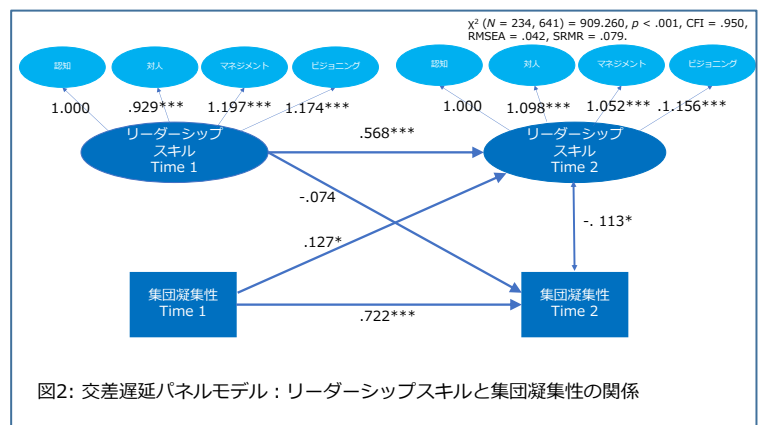
4. 研究成果

- (1) 調査の結果、アスリートのリーダーシップスキルを構成する4因子（認知、対人、マネジメント、ビジョニングスキル）が確認され、また結果はESEMモデルよりも、4因子のCFAモデル、そして高次因子CFAモデルの採用を示唆した（図1）。

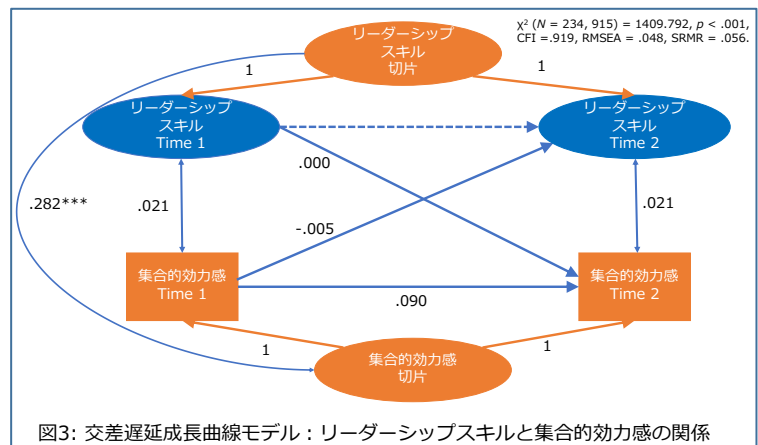
- (2) フォローアップ調査の結果、アスリートリーダーシップスキル尺度における測定不変性を確認した。アスリートリーダーシップスキル尺度は、アスリートリーダーシップスキルの変化を検証する際に、安定して使用できる尺度であることが示された。また、アスリートリーダーシップのスキルは二時点ではほとんど変化がなく安定したものであることが示唆された。



- (3) 交差遅延パネルモデルで集団凝集性とアスリートリーダーシップスキルの関連性を検討した。またアスリートリーダーシップスキルは集団凝集性の変化を有意に予測しないが、集団凝集性はアスリートのリーダーシップスキルの変化を有意に、正に予測することが確認された（図2）。集団凝集性を高めることが、アスリートのリーダーシップスキルの成長につながる可能性が示唆された。



- (4) 集合的効力感とアスリートリーダーシップのスキルの関連を、ランダム切片と交差遅延効果を推定した成長曲線モデルを用いて検討を行った結果を図3に示している。アスリートリーダーシップスキルと集合的効力感の交差遅延効果はみられなかったものの、チームのデータの観察の非独立性の影響を制御した上で、リーダーシップスキルと集合的効力感の初期状態（切片）に有意な正の関連性が確認された。これは、チームのリーダーシップのプロセスを表す集合的効力感が、アスリートリーダー個人のリーダーシップスキルに関連することを示唆する結果である。



- (5) スポーツチームで実施したリーダーシップ・プログラム、体育大学の関連分野の授業で、アスリートリーダーシップスキル尺度を使用し参加者のリーダーシップスキルの変化を検証した。その結果、介入を通して変化するスキルが確認された。上記の縦断調査で、アスリートリーダーのスキルはシーズンを通して、安定したものであることが示されていた。しかし積極的なリーダーシップスキルについての介入は、リーダーシップスキルの成長を促す可能性が示された。

<主な引用文献>

Machida-Kosuga, M. & Kohno, N. (2023). Athlete leader development: The perspectives of athlete leaders, teammates, and coaches. *Journal of Applied Sport Psychology*, 35, 111-135. <https://doi.org/10.1080/10413200.2021.2024624>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Machida-Kosuga Moe, Kohno Natsumi	4. 巻 35
2. 論文標題 Athlete leader development: The perspectives of athlete leaders, teammates, and coaches	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Applied Sport Psychology	6. 最初と最後の頁 111 ~ 135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/10413200.2021.2024624	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Machida-Kosuga Moe	4. 巻 35
2. 論文標題 Gender (Dis)Similarity in Mentorship Among Intercollegiate Coaches: Implications for Leader Development	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Sport Psychologist	6. 最初と最後の頁 181 ~ 189
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1123/tsp.2020-0071	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Machida-Kosuga Moe, Schaubroeck John M., Gould Daniel, Ewing Martha, Feltz Deborah L.	4. 巻 4
2. 論文標題 What Influences Collegiate Coaches' Intentions to Advance Their Leadership Careers? The Roles of Leader Self-Efficacy and Outcome Expectancies	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Sport Coaching Journal	6. 最初と最後の頁 265 ~ 278
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1123/iscj.2016-0120	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 小菅（町田）萌，廣光佑哉	
2. 発表標題 アスリートのリーダーシップスキルの成長に関する検討	
3. 学会等名 第73回 日本体育・スポーツ・健康学会	
4. 発表年 2023年	

1．発表者名 Moe Machida-Kosuga, Sora Aita, Nijika Tanaka
2．発表標題 Examining the Athlete Leadership Skills and the Development: From the Perspectives of Athlete Leaders, Teammates, and Coaches
3．学会等名 15th European Congress of Sport and Exercise Psychology (国際学会)
4．発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1．著者名 小菅 萌 (荒木雅信、山本真史、編著)	4．発行年 2023年
2．出版社 大修館書店	5．総ページ数 9
3．書名 第III部3章 スポーツにおける集団 (これから学ぶスポーツ心理学 三訂版)	

1．著者名 小菅 萌 (國部 雅大、雨宮 怜、江田 香織、中須賀 巧、編著)	4．発行年 2023年
2．出版社 講談社	5．総ページ数 5
3．書名 9.4 スポーツチームにおけるリーダーシップ (これからの体育・スポーツ心理学)	

1．著者名 小菅 萌 (日本スポーツ心理学会、編著)	4．発行年 2023年
2．出版社 大修館書店	5．総ページ数 7
3．書名 スポーツ心理学の挑戦：その広がりと深まり	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------